

新ビジョン

城南区の25年後を見据えた提言



● 城南区シンボルキャラクター

油山の妖精 ニッコりん

平成**23**年**8**月**31**日

城南区職員 新ビジョン提言チーム

はじめに



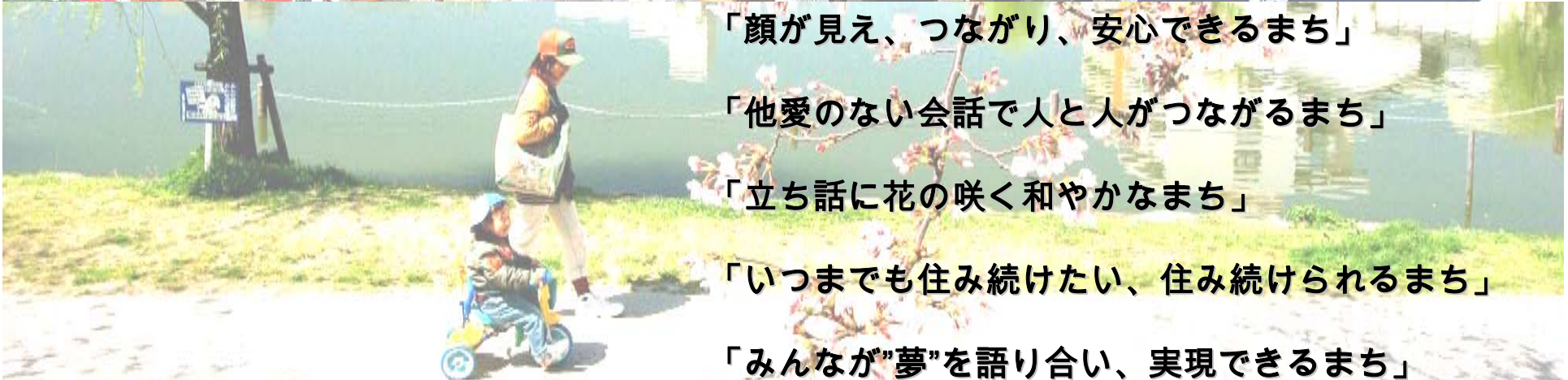
「顔が見え、つながり、安心できるまち」

「他愛のない会話で人と人がつながるまち」

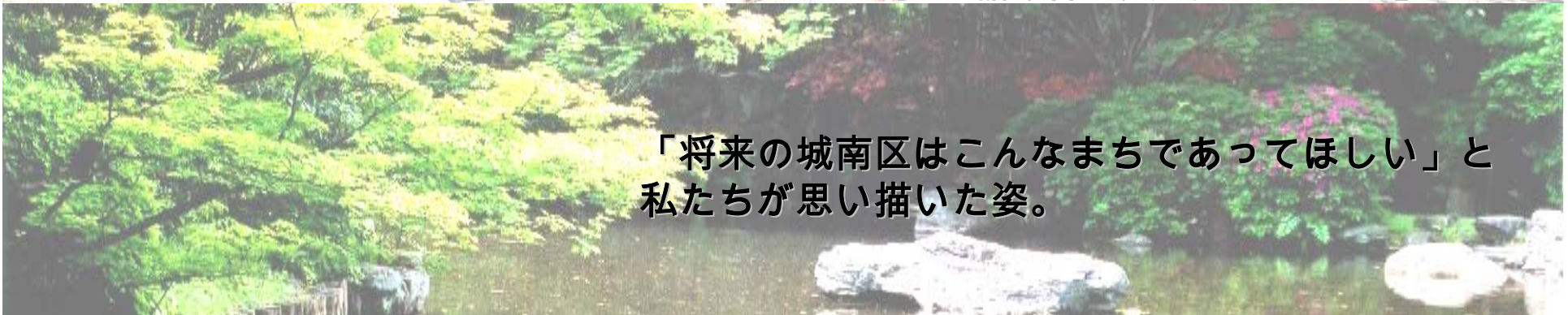
「立ち話に花の咲く和やかなまち」

「いつまでも住み続けたい、住み続けられるまち」

「みんなが“夢”を語り合い、実現できるまち」



「将来の城南区はこんなまちであってほしい」と
私たちが思い描いた姿。



趣旨

【城南区職員が提言する新ビジョン】

- 城南区の25年後を見据えた上でのビジョンということで、私たち城南区職員は、市職員の中の一つのチームとして、検討のためのミーティングを重ねてまいりました。
- まず、城南区は他の区と異なり、大規模な開発が進行する地域もなく、外形的な変化を与えるような大きな出来事は起きないだろうと考えました。
- しかし高齢化率においては今や市内で最も高い区であるなど、変化は緩やかですが内的な変化は着実に進行し、さらにこれからの区民の意識や暮らし方も、世代が変わるにつれて異なったものになっていくだろうとも考えました。

【新ビジョンの提言に当たって】

- そこで私たち城南区職員新ビジョン提言チームは、将来の城南区がこんな「まち」であってほしいという理想像を提示することにしました。
- 25年後の理想像を示すことで、私たちチームからの「新ビジョン」の提言とします。



私たちは25年後の城南区はこんな「まち」であってほしい。

そんな「まち」の姿を以下のようにまとめました。

人と出会い、対話が生まれるまち

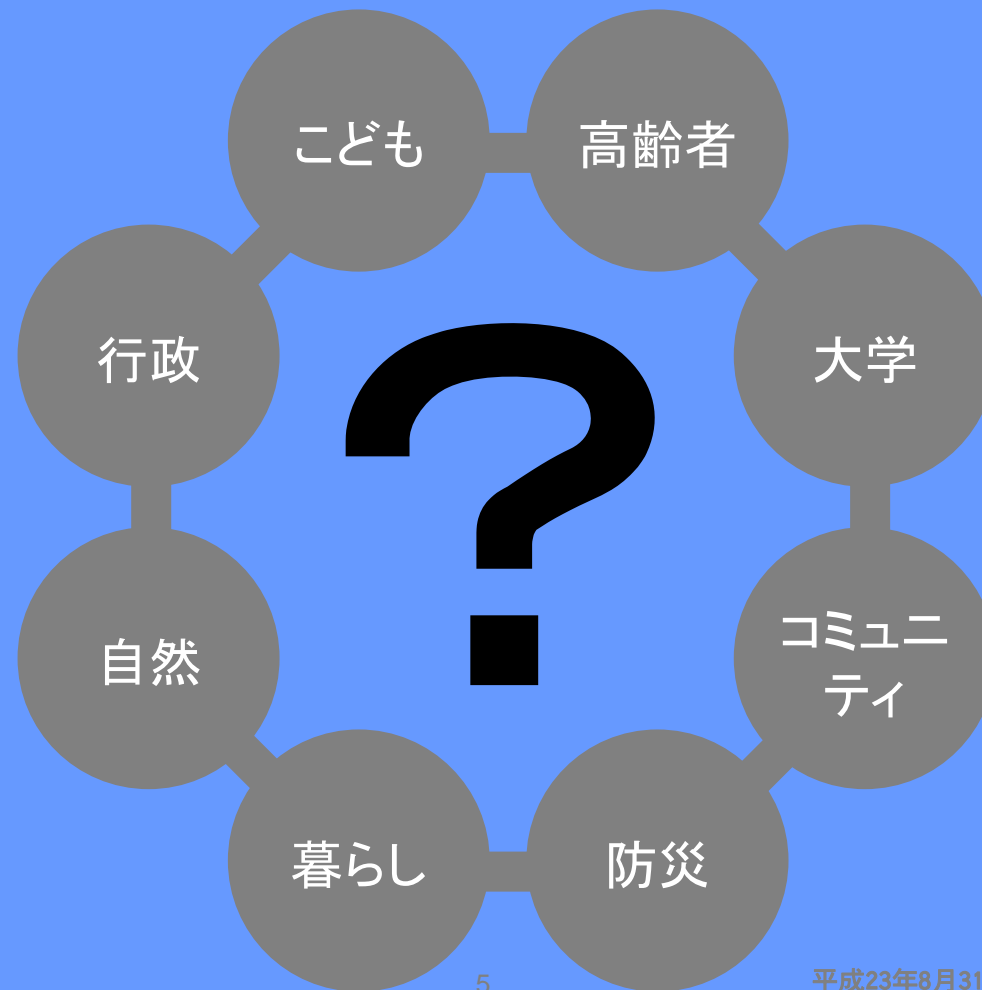
～ 「おたがいさま」の気持ちが紡がれる～



- 何気ない地域での場面から、人と人が出会い、そこから対話が自然と生まれる。
- 対話の中から、強制されることなく互いが「おたがいさま」の気持ちでサポートし、それが大きな支え合いの輪につながっていく。
- 居住地としての城南区の魅力がよりいっそう高まる。

25年後の城南区

～ストーリー～



ストーリー / おじさん現る

私が城南区に移り住んでから、もう三十数年になるやろうか…

長年勤めた福岡市役所も定年退職、今は時間に余裕も出来て、歳を取ったなりに気力も体力も程よく充実しとる。

息子が小学校時代に郷土史研究クラブにたまさか入って、それがきっかけで「城南区の民話」と出会い、その魅力にすっかりのめり込んでしもうて、今では郷土史研究の講師ばするほどになってしもうた。

区内の小学校全校で、何らかの郷土史研究クラブのようなもんがあって、毎週毎週数日は子どもたちに会いに出かけて、忙しゅうしながらも結構充実しとるセカンドライフですたい。

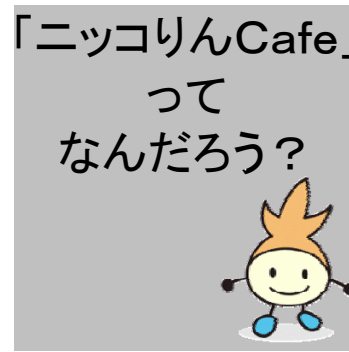
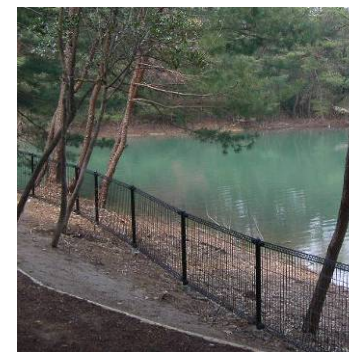
ところで、私の姪っ子もこの城南区に住んどるとやけど、こっから2キロほど先にある「ニコりんセンター」で働いとる。

地域コミュニティに関わるようなことは、今はほとんどがその「ニコりんセンター」や「ニコりんCafe」でまかなわれとる。

私が脂ののりきとった時分、もう二十五年くらい前になろうか…その頃に比べてみれば、役所の仕事もすっかりスリムになって、今は昔…なつかしか思いのするくらい変わってしもうたもんなあ。

さあ、こげな思いにふけとる場合やなか。

今日も郷土史の講義やけん、そろそろ「ニコりんCafe」に行かないかんばい。



※写真はイメージであり、ストーリーとは関係ありません

ストーリー / おじさん、相談を受ける

「ニコりんCafe」に着いたばってんが、ここは子どもやら学生やら、大人もじいちゃんばあちゃんまで、人出のいっつも多くて…今日はフリーマーケットもありよるし、各種サークルの参加者とか老若男女の人たちが行き交って、ほんなこつ大賑わいやなあ。

ボランティアの大学生たちも色々と運営に携わってくれとって、若っかもんと年寄りや父ちゃん・母ちゃん世代が一緒くたに活動しよる様は、本当に活気があって気持ちのよか風景やなあと思ひながら私は郷土史講義の会場に入っていった。

小一時間ほどの講義も終わって、帰り支度をしていると、すっかり顔見知りになった受講生のオイサンから話しかけられた。

「先生、私も物忘れのひどうなってきたっちゃろうか。最近、一人暮らしに不安ば覚ゆるごとなってからくさ、老人ホームやらも考えてみたばってんが、なあ〜んか味気のなか感じのしてね…先生の知恵でどげんかならんでっしょうか。」

「そうね、独り身はいろいろと不便やし、何よりさびしかもんなあ。私もそん気持ちはよう分かるばい。姪っ子が『ニコりんセンター』でコーディネーターばしよるけん、あれやったら今から行って相談ばしてきちゃろう。」

「先生、すんまっしえんなあ。面倒ばかけますが、都合ようお願いします。」

「なあに、そげんこつはおたがいさまでっしょうが。気持ちだけでも大船に乗ったつもりで、任せときんしゃい。」

姪っ子に会うのも久しぶりやなあ。顔見がてら「ニコりんセンター」へ行ってみようか。私は「ニコりんセンター」へ向かって歩き出した。



「ニコりんCafe」
は
人が集う場
みたいだね



※写真はイメージであり、
ストーリーとは関係ありません

ストーリー / ニッコりんセンターで働く姪

「ニッコりんセンター」に着いて、執務室ばのぞいてみたら、姪が忙しそうに歩き回った。私は近づいて行って「久しぶりやねえ。相変わらず、最近も忙しかとね？」と声ばかけた。

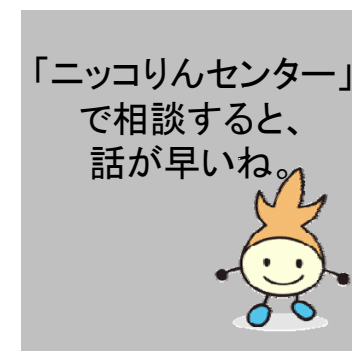
姪は、「あら、おじさんじゃない。お久しぶりです。毎日忙しいけど、大体定時には帰られるし、やりがいあるから頑張ってるよ。今日はどうしたの？」と答えた。

私は、先ほどのオイサンの話をして、「『ニッコりんセンター』って、そげなこつも相談にのってやるとかいな？」って聞いてみた。

姪は微笑んで、「おじさん、大丈夫よ。『ニッコりんセンター』は、地域で困ったことよろず相談も守備範囲だから。最近お年寄りからのそういう相談が多いのよねえ。城南区は大学生もいっぱい住んでいるんだから、この際お年寄りや大学生とかが共同して暮らせるような施設を考えてみるのも面白いかもしれないなあって思ってたのよ。いろんな分野の専門家ともしっかり連携がとれているから、今度みんなでワークショップとか開いて考えてみるわ。」と言う。

姪はこの仕事が好きなんだなあと思い、生き生きとした笑顔にすっかり頼もしく、そして力強く感じた。

「また連絡するわね」と言う姪に、「いろいろと面倒かけるばってんが、よろしゅう頼んどくばい」と声をかけて、私は「ニッコりんセンター」を後にした。



※写真はイメージであり、ストーリーとは関係ありません

ストーリー / 姪の思い

「おじさんとは久しぶりに会ったなー。この前会ったのは、私が大学時代だったかなー。」

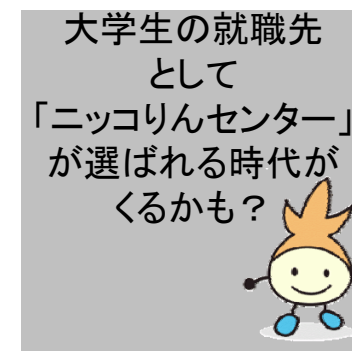
大学進学を機に城南区に住み始め、大学のサークル活動の傍ら、友人の誘いで地域活動の会合にも顔を出していた。それが縁で「ニコりんCafe」でボランティア活動をするようになった。

ボランティア活動を通して、いろいろな立場の人たちの悩み事を聞いたり、高齢者への声かけ隊を集めたり、様々な人や活動と出会わせてもらった。地域の課題が解決に近づくたびに、この城南区は住みやすい環境だという実感が増してきた。

それに、城南区は住宅地が多い割には、油山や樋井川という自然に恵まれ、私が理想とする自然と調和したまちだと感じている。手軽にスポーツやハイキングなどができるところも魅力だ。子どもを育てる環境も抜群だと感じている。

友人と参加した「ニコりんセンター」主催のセミナーで、元社長の方から話を聞く機会があって、初めてコミュニティービジネスについて学ばせてもらった。入学当初は地域活動にさえ興味がなかったが、その講話が転機となり、仕事をとおして地域貢献したいとまで思うようになった。

私の友人は、大学卒業後に就職して県外へ出て行ったが、私は大好きなこの城南区から離れることができず、そのまま「ニコりんセンター」へ就職した。ときには複雑な問題にぶつかることもあるが、逆にやりがいを感じている。



※写真はイメージであり、ストーリーとは関係ありません

ストーリー / 仕事と生活

「♪♪♪～」

携帯のメロディが流れる。もう、昼休みだ。

「もしもし」

「あ、オレ。今日は、帰り、保育園に迎えに行き、そっちも迎えに行くけん。今日は、夕飯食べて、『Cafe』に練習に行くけん、よろしく。」 夫からだった。

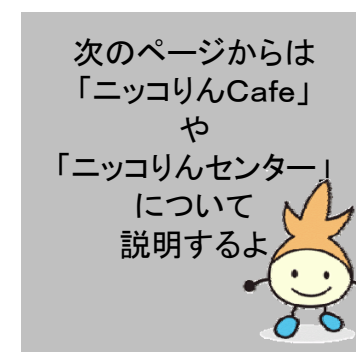
明日の土曜日は、校区対抗歌合戦。先月、子ども会のソフトボール大会の監督やコーチをしたお父さんたちで仲良くなり、校区対抗歌合戦にみんなで出場する話で盛り上がり、夫は先日あった校区予選を通過。明日は本番なので、夕食後、家の近くの「ニコりんCafe」に行って最後の練習するんだと、はりきっている。

就職した頃はこんな余裕なかったが、今では「ワークライフバランス」を支えるための仕組みが整うとともに、あらゆる職場で共通の価値として尊重されている。そのため夫も防犯パトロールなど地域のいろいろな活動に参加できるようになり、いろいろな年齢、いろいろな職業のお父さんたちの仲間ができて、充実しているようだ。

さあ、私も午後は、さっきおじさんから相談があった件、早速、関係しそうな登録団体と調整して、近日中にワークショップを立ち上げよう。

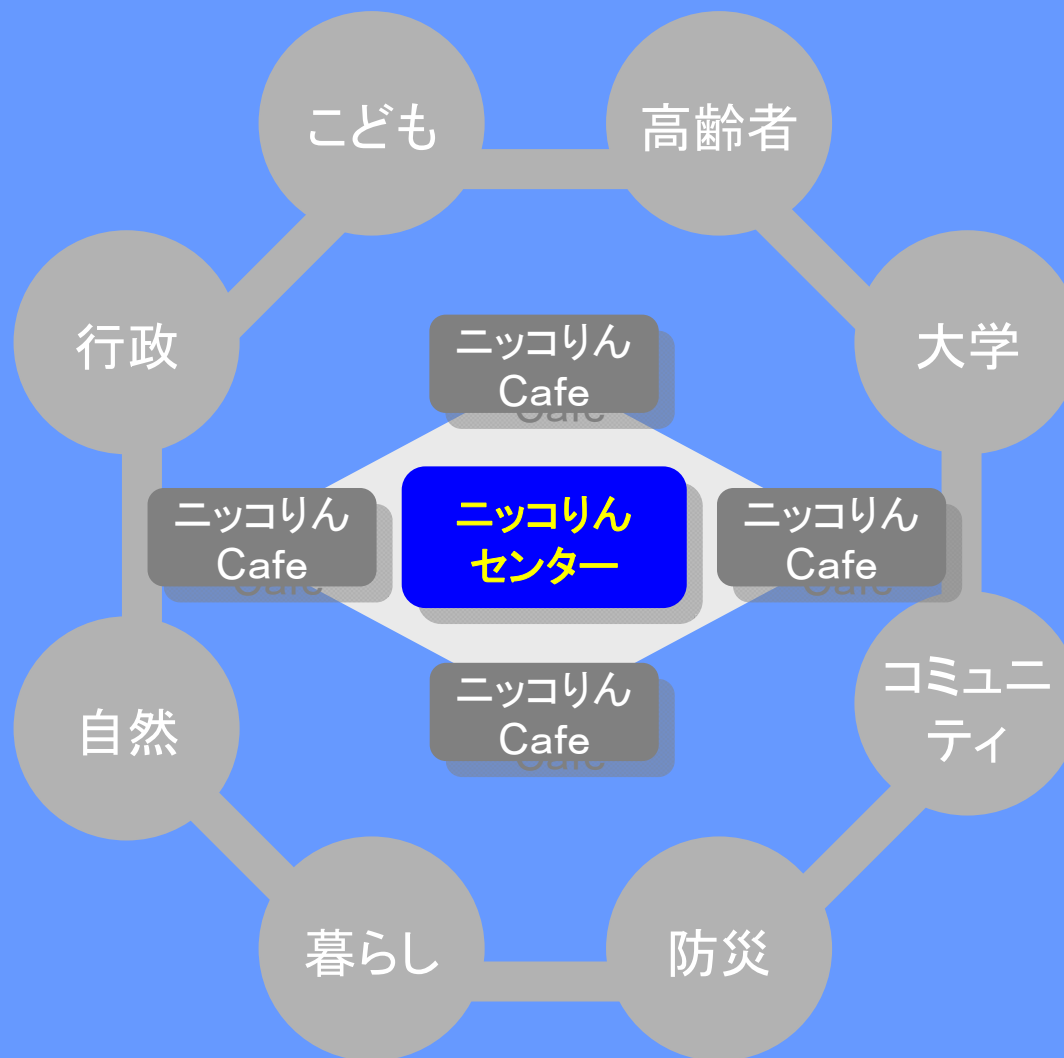
ここの仕事は大変だけど、みんなが智恵をしばりだして、良いものを創り上げていくところが前向きでとてもいいと思う。

「今回も、きっと良い解決方法が見つかる！」そう信じて、オフィスのパソコンに向かって登録団体名簿の検索をはじめた。



※写真はイメージであり、ストーリーとは関係ありません

新たな「場」や「拠点」を



新たな「場」や「拠点」の必要性

25年後は、住民の価値観やライフスタイルが今よりも多様化し、
それに伴って多様な課題が生じるかもしれません。

滞在型のリゾートホテルには気軽に立ち寄れるカウンターがあり、そこには気の利いたコンシェルジュがいて客からの多様な相談に乗り、即座に何らかの対応をしてくれます。

居住地である城南区でも、地域で困ったことが生じれば、或る「場」において適宜受け止められ、スピーディに解決されるという営みが生まれると良いのではないのでしょうか？さらにそんな「場」は、区に1か所ではなく、日常的に行ける範囲毎にあると、なお良いと思います。

城南区が25年後に今よりも成熟するには、身近なエリアで課題を受け止める「場」、解決に導く「場」が求められるのではないのでしょうか？

ストーリーの中に出た「ニッコりんC a f e」は、まさにそのような「場」をイメージしています。

また一方で居住地である城南区には、企業で能力を培ったり人脈を豊かにした上で退職したという人も多いばかりでなく、区内に2校の大学があることで専門性のある人材にも恵まれています。

城南区だからこそ、平日の昼間は人材の宝庫であるとも言えます。

そのような人の持つパワーをどんどん地域に活かすための「拠点」があるといいと考えました。

地域にある「ニッコりんC a f e」では解決できないような困難な課題も、この「拠点」に集う人材が創造性溢れる発想や方法で鮮やかに解決していく。解決することを事業化して、収益を発生させて「拠点」を発展させるための原資とし、よりいっそう地域に貢献できるような事業を起こしていくことでビジネスとしての循環を生むことも想像できます。

ストーリーの中にある「ニッコりんセンター」は、課題を創造的に解決する上での「拠点」であるものとしてイメージしています。

『ニッコりんCafe』とは

ニッコりんCafe



- 誰でもふらりと立ち寄れる、地域住民憩いの場
- 学校の空き教室などを活用、区内に数ヶ所あり、身近な交流の場
- 気軽に相談できるスタッフが常駐、スタッフは解決するために必要な機関につないだり、地域の資源を活用して解決に当たるためのリーダーシップもとる
- ニッコりんセンターや他のニッコりんCafeと連携するほか、既にある高齢者の地域包括支援センター等あらゆる行政の支援組織とも連携する

連携

ニッコりん
センター

連携

連携

連携

連携

行政

連携

連携

大学・企業

連携

連携

連携

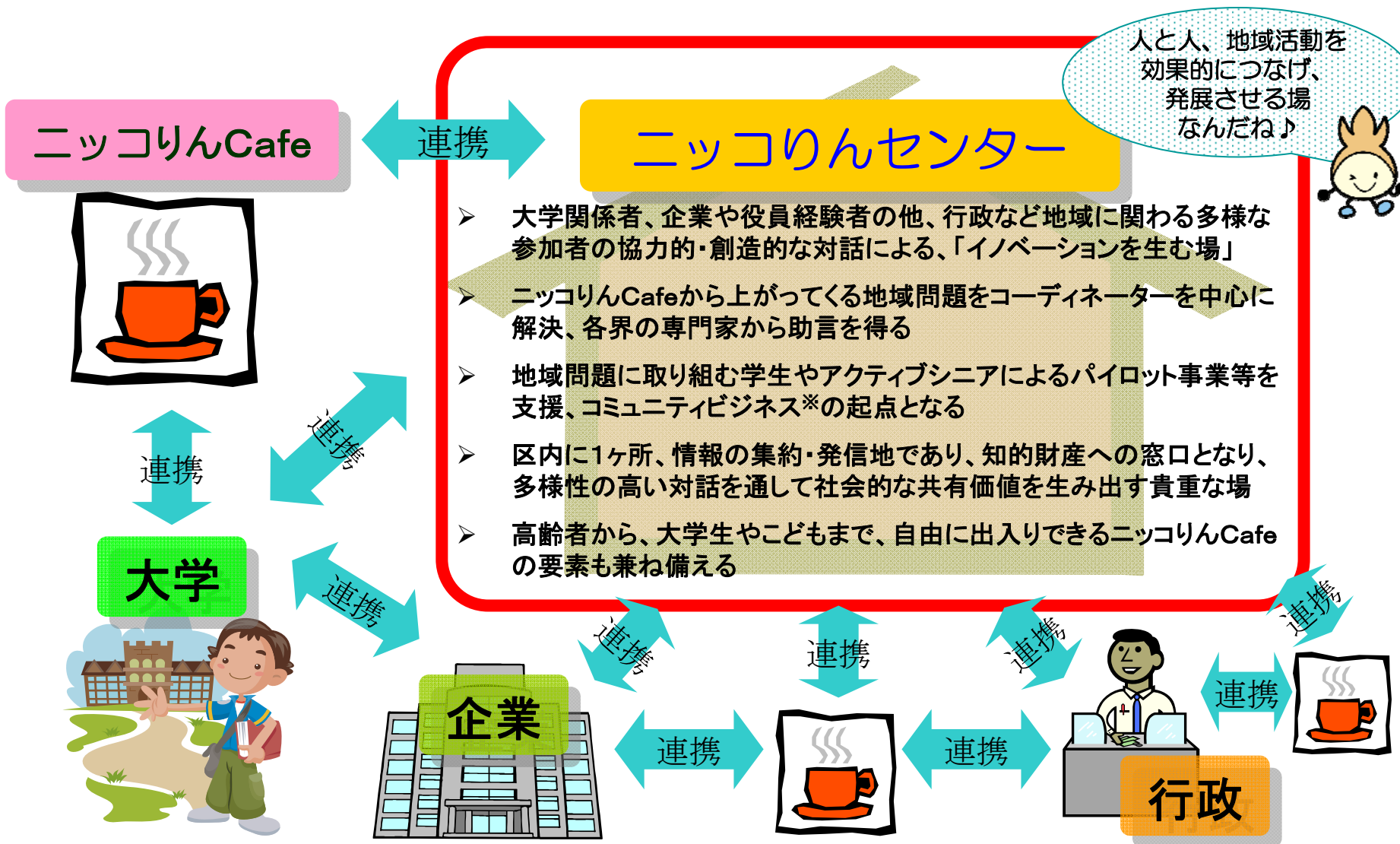
連携



地域の憩いの場
だけど、
いろんな組織と
つながってるね！



『ニコりんセンター』とは



※コミュニティビジネス： 地域(生活圏)の課題を、地域の人が地域の資源(ヒト・モノ・クウカン・ブンカなど)を活用して、ビジネスの手法で解決するもの。

ニッコりんセンターとニッコりんCafeの可能性

◆地域資源(ヒト・モノ・クウカン・ブンカなど)が集まる。

- ヒト …特殊技術や専門知識を持った人、地域に詳しい人、失業者、主婦、高齢者 など
- モノ …農水産物、リサイクル資源(古紙など) など
- クウカン …空き店舗、空きスペース、集会所、広場 など
- ブンカ …日本文化、地域文化、食文化、スポーツ文化、風習、習慣 など

◆プロボノ(各分野の専門家が職業上持っている知識・スキルや経験を活かして無償で社会貢献を行うボランティア活動)による人材不足の解消。

◆コミュニティがビジネスとなることにより、地域経済の活性化や地域コミュニティの再生ができる。

◆「住民」と「行政」による共働の推進・促進により、行政サービスの効率化ができる。

◆地域コミュニティ施設として中核の場である公民館や発表の場であるホール機能を持つ市民センターなどの社会教育施設としての機能を持てる。



◆地域雇用機会が創出できる。

「地域社会中心の事業→福岡市→全国展開→海外への拡大」と、城南区に在住しながらビジネスをすることができる。

また、城南区を拠点として起業する可能性が高まり、起業した後には事業の拡大につれて学生にとって魅力的な就職先になる。地域課題解決に取り組む事業が起こることによって、より住みよい、住みたくなるまちになり、知識・技能を持った学生が城南区から流出しないための好循環が生まれる。

理想とする「まち」にいたるには

「人と出会い、対話が生まれるまち」となるためには、行政だけでなく、住民や大学や企業やコミュニティ組織など、個人や団体の意識と行動の変革、コミュニティの構築が必要となります。

【人と人とのつながり】

「住民と住民」「住民と行政」「住民と各種団体」との出会いから生まれる対話を大切にし、人と人とのつながりが構築できるよう、お互いを理解し合い、足並みを揃えることが必要なのではないでしょうか。

【出会いまでのきっかけ】

城南区には福岡大学と中村学園大学の2つの大学があり、普段ふれあう機会の少ない住民と学生が連携して活動していくためには、住民と学生の橋渡しをする場やコーディネーターが必要なのではないでしょうか。

また、地域活動に必要な地域情報をいつでもどこでも入手できるようにし、情報を共有できる場が必要なのではないでしょうか。

【共通活動・共通体験】

コミュニケーションを取りやすくするため、高齢者や学生など様々な世代の人が集まることができる共通の体験や活動の場が必要なのではないでしょうか。



人と出会い、対話が生まれるまちへ

「人と人とのつながり」は出会うことで、細い一本の糸になります。はじめは切れやすくもろい糸です。まだ単なる知り合い、顔見知りなのですから。

当然、関係性も薄いものでしかありません。

いろいろな共通体験・共通活動をすることでだんだん親しくなり、その細い糸が増え、だんだん太くなって、鋼のようになるのです。

高齢者、働き盛りの現役世代や子育て世代、若者や小・中・高校生が世代を超えて集まることができる「温もりのある場所づくり」とともに、これからの地域社会や地域づくりには共通体験や共通活動が必要不可欠になってくるのではないのでしょうか。

私たち城南区職員有志は、25年後のビジョンを検討するに当たって、「出会いから生まれる対話」を大切に、そこから一つ一つ関係を構築していくことができればよいと考えます。



ニッコりんセンターを構想するにあたって

私たち新ビジョン提言チームは、『ニッコりんセンター』を構想するにあたって、
『フューチャーセンター』を参考にしました。

【フューチャーセンター】

フューチャーセンターとは欧州で発祥し、設立が広がっている施設です。1996年にスウェーデンの保険会社が開設したのが始まりで、オランダ政府、デンマーク政府などが開設し約20箇所存在します。

例えばオランダでは、政府12省庁すべてに門戸が開かれているカントリーハウスと呼ばれるフューチャーセンターがあり、省庁の枠組みを超えて社会や地域の問題を解決するために必要な支援やリソース(資源・財源)の配分について対話が行われています。

日本では、2007年に富士ゼロックス、2009年に東京海上日動システムが開設しておりますが、日本の行政でフューチャーセンターを展開しているところはないと思われます。

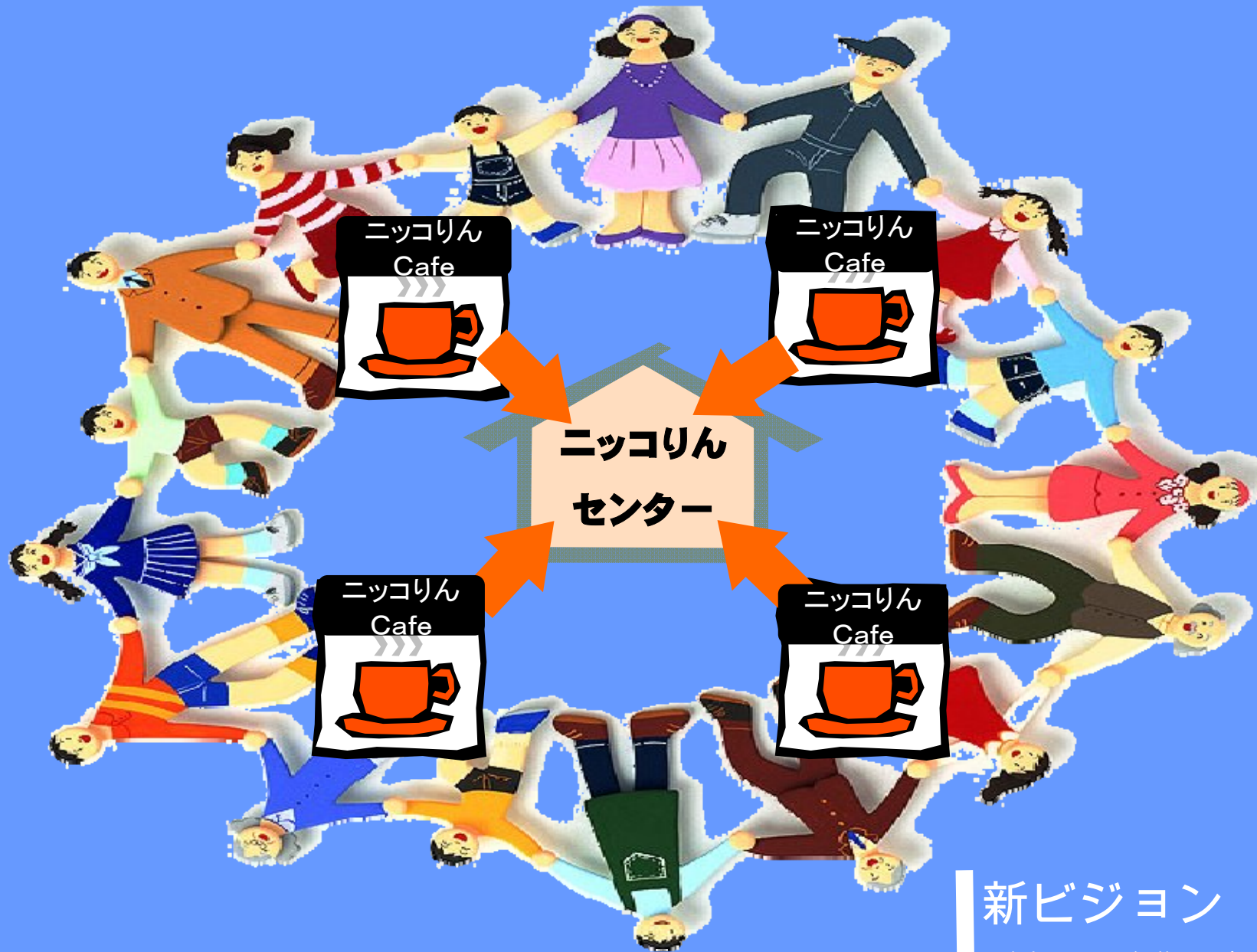
施設は、研修スペースや学習スペース、ミーティングスペースなどを中心に構成され、食堂や図書館、インフォメーション機能を兼ね備えることもいいと思われます。

新規に用地買収や建物といった発想ではなく、既存施設をリフォームしたり、あるいはリフォームせずとも、フューチャーセンターの一部機能を創っていくことは十分可能です。

そこでは、課題を抱く人の大切な想い、本質的な問いから全てが始まるのです。本質的な問いを立てることで、未来のステークスホルダー(民間企業、学校や病院、NPOなどの団体、政府や地方自治体など、あらゆる組織の利害関係者)も集めることが出来るのです。

すなわちフューチャーセンターとは、企業、政府、自治体などの組織が中長期的な課題の解決を目指し、様々な関係者を幅広く集め、創造的な問題解決のための最高の環境を作るファシリテーターが引き出す対話を通じて新たなアイデアや問題の解決手段を見つけ出し、相互協力の下で実践するために設けられる施設であり、通常組織内では決して構築されることのない、企業や自治体の枠組みを超えたイノベーション等の複雑な問題解決のための集合知を形成し、横断的で多様性の高い、未来志向な対話を行って意思決定や理解の共有が行われる場なのです。

**25年後の城南区にフューチャーセンターがある。
多様な人の出会いから対話が生まれる拠点として、城南区のシンボルになっているでしょう。**

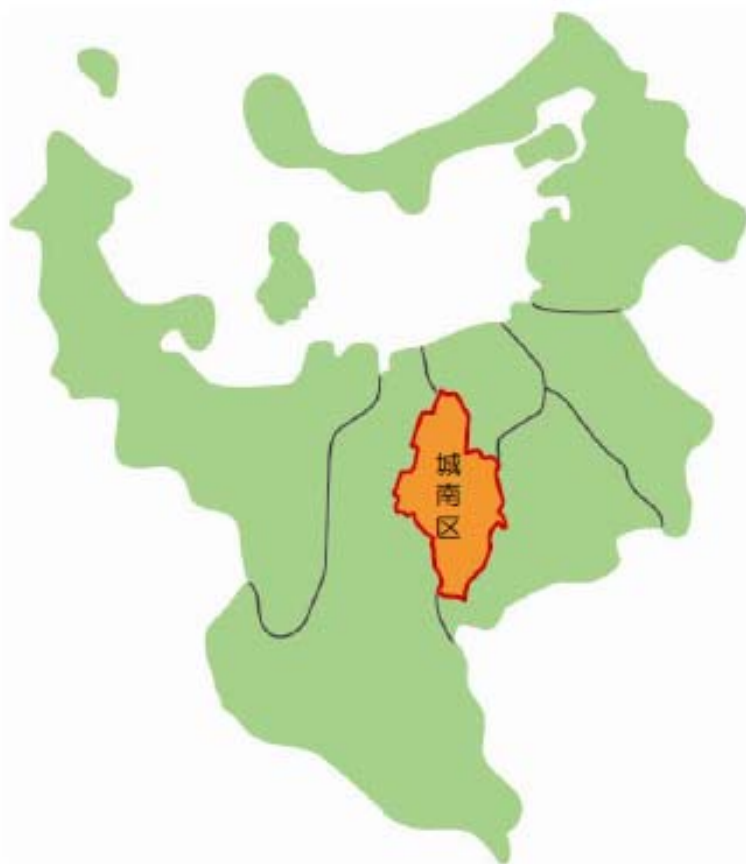


新ビジョン

~城南区の25年後を見据えた提言~
平成23年 8月31日

城南区職員 新ビジョン提言チーム

資料 一 城南区のあらし①



○昭和57年5月10日に旧・西区から分区してできた城南区は、福岡市のほぼ中央に位置し都心に近く自然に恵まれた住宅・文教地区です。

○かつては農地が広がり、区内に点在するため池はその名残をとどめています。南部に広がる油山は都心に近い貴重な森林地帯で、市民の森などがあり、多くの市民の憩いの場として親しまれています。ここを源流とする樋井川が、区内を南北に流れ博多湾へと注いでいます。

○戦後、大規模な住宅団地が区の全域に建設されるなど、市街化区域に占める住宅地の割合が高く、中央区に次いで高い人口密度となっています。

○今後は、大型団地を中心とする地域では高齢化の進行が予想されます。

○区内には福岡大学、中村学園大学という2つの大学があり、両大学を合わせた学生数は約2万5千人で区の人口の2割にあたるなど、学生をはじめとする若人や単身者が多く、人口移動も多いのが特徴です。

○区内を縦貫する地下鉄七隈線や、横断する福岡外環状道路及び福岡都市道路（福岡高速5号線）などの整備により交通利便性に優れています。

資料 一 城南区のあらし②

■ 城南区の面積・人口等と福岡市に占める割合（右表）

（右表出典）

- ・面積はH22年10月1日現在国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」
- ・世帯数はH23年4月1日現在の推計
- ・人口はH23年3月末現在の住民基本台帳登録人口及び外国人登録人口の合計値

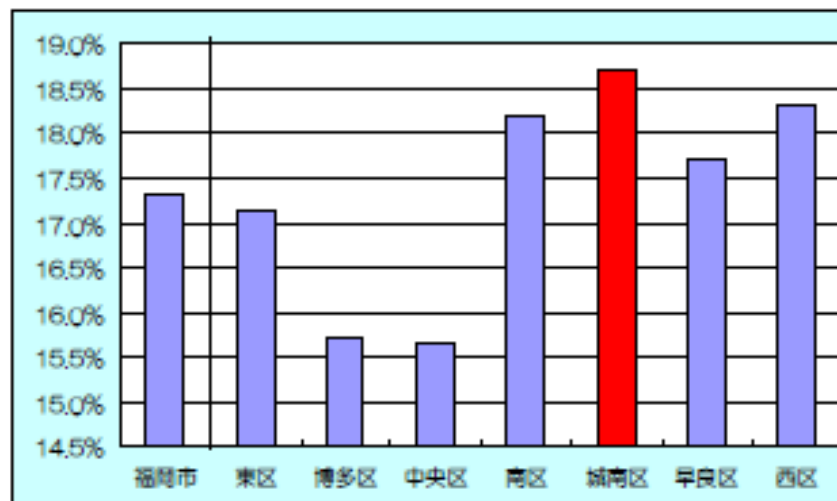
面積・人口		城南区	福岡市	割合(%)
面積(km ²)		16.02	341.32	4.7
世帯数(世帯)		62,226	712,915	8.7
人口(人)	総数	121,991	1,433,419	8.5
	女	63,902	752,087	8.5
	男	58,089	681,332	8.5
年齢別	0～14歳	16,817	199,204	8.4
	15～64歳	82,346	985,971	8.4
	65歳以上	22,828	248,244	9.2

■ 福岡市及び各区の高齢化率（右グラフ）

※城南区は7区で最も高齢化率（65歳以上の占める割合）が高くなっています。

（右グラフ出典）

- ・H23年3月末現在の住民基本台帳登録人口及び外国人登録人口の合計値



Member

■城南区職員 新ビジョン提言チーム

城南区地域整備部生活環境課

// 市民部市民税課

// 区政推進部地域支援課

// 地域整備部維持管理課

// 保健福祉センター健康課

// 区政推進部総務課

// 保健福祉センター保護課

// 保健福祉センター福祉・介護保険課

川越 かおる

久家 佐知子

中井 進一

永松 潤一

中村 芳子

樋口 譲二

藤井 梅治

松吉 泰直

50音順

■事務局

城南区区政推進部企画振興課

// 区政推進部企画振興課

馬場 しのぶ

高着 さとみ



城南区シンボルキャラクター
油山の妖精 ニッコりん